

## SDGs進捗「不十分」

### 国連 2030年達成へ警鐘

【ニューヨーク時事】国連は14

日、2030年までの達成を目指す「SDGs（持続可能な開発目標）」に関する年次報告書を発表

し、「期限まで5年しか残されていない中、進捗は極めて不十分

だ」と警鐘を鳴らした。既に計画

期間の約3分の2が経過したにもかかわらず、「適切な進展」が認め

られたのは課題の3分の1にとどまった。

全課題169項目のうち、139が評価の対象となった。「平等な教育機会」や「エネルギー設備への投資」など「順調もしくは達成」とされたのは18%で、「ある程度

の進展」の17%と合わせて「適切な進展」があったと評されたのは計35%だった。一方で「差

別の撤廃」など18%は、「後退」

と位置付けられた。

グレース事務総長はニューヨークの国連本部で記者会見し、進捗状況について「私たちはまだ居るべき場所にとどまっている」と強調。

「直ちに団結し、揺るぎない意志で行動した場合にのみ目標達成が可能だ」と訴えた。また、「開発の遅れと紛争は深いつながりがある」と述べ、パレスチナ自治区ガザやウクライナで「直ちに停戦が必要だ」と呼び掛けた。

24年には12分ごとに1人の命が武力紛争で失われたと指摘。貧困や食料危機、妊産婦死亡率など多岐にわたる分野で、紛争地域が受ける深刻な影響が指摘された。

SDGsは15年に国連で採択されたのは計35%だった。一方で「差別の撤廃」など18%は、「後退」

と位置付けられた。グレース事務総長はニューヨークの国連本部で記者会見し、進捗状況について「私たちはまだ居るべき場所にとどまっている」と強調。

「直ちに団結し、揺るぎない意志で行動した場合にのみ目標達成が可能だ」と訴えた。また、「開発の遅れと紛争は深いつながりがある」と述べ、パレスチナ自治区ガザやウクライナで「直ちに停戦が必要だ」と呼び掛けた。

24年には12分ごとに1人の命が武力紛争で失われたと指摘。貧困や食料危機、妊産婦死亡率など多岐にわたる分野で、紛争地域が受ける深刻な影響が指摘された。

SDGsは15年に国連で採択されたのは計35%だった。一方で「差別の撤廃」など18%は、「後退」

と位置付けられた。グレース事務総長はニューヨークの国連本部で記者会見し、進捗状況について「私たちはまだ居るべき場所にとどまっている」と強調。

「直ちに団結し、揺るぎない意志で行動した場合にのみ目標達成が可能だ」と訴えた。また、「開発の遅れと紛争は深いつながりがある」と述べ、パレスチナ自治区ガザやウクライナで「直ちに停戦が必要だ」と呼び掛けた。

24年には12分ごとに1人の命が武力紛争で失われたと指摘。貧困や食料危機、妊産婦死亡率など多岐にわたる分野で、紛争地域が受ける深刻な影響が指摘された。

SDGsは15年に国連で採択されたのは計35%だった。一方で「差別の撤廃」など18%は、「後退」

と位置付けられた。グレース事務総長はニューヨークの国連本部で記者会見し、進捗状況について「私たちはまだ居るべき場所にとどまっている」と強調。

「直ちに団結し、揺るぎない意志で行動した場合にのみ目標達成が可能だ」と訴えた。また、「開発の遅れと紛争は深いつながりがある」と述べ、パレスチナ自治区ガザやウクライナで「直ちに停戦が必要だ」と呼び掛けた。

24年には12分ごとに1人の命が武力紛争で失われたと指摘。貧困や食料危機、妊産婦死亡率など多岐にわたる分野で、紛争地域が受ける深刻な影響が指摘された。